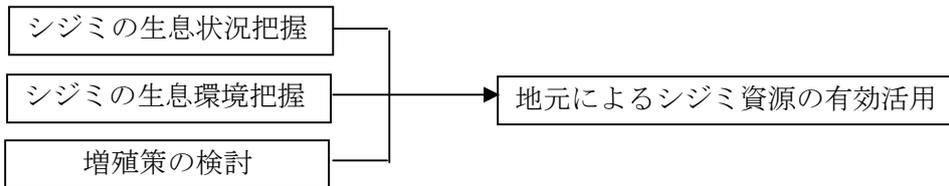


3.一③河内川ヤマトシジミ調査

- (1) 担 当：福井利憲（生産技術室）
- (2) 実施期間：平成24年度（平成24年度予算額：2,798千円）
- (3) 目的・意義・目標設定：

河内川に生息しているヤマトシジミ（以下シジミ）の現状を明らかにし、地元によるシジミ資源活用策を検討するための基礎資料とする。

(4) 事業展開フロー



(5) 取り組みの成果

1) 目的

河内川に生息しているヤマトシジミ（以下シジミ）の現状を明らかにするとともに増殖策を検討する。

2) 方法

①シジミ調査

エクマンバージ採泥器（15cm×15cm）を用いて底土を採取し、0.85mのフルイにかけて残ったシジミを計数した。調査定点は18地点とした（図1）。調査は平成25年3月15日に行った。

②環境調査

シジミ調査と同時に同一地点で採泥し、シルト・クレイ分、硫化物量を測定した。また、St.3でYSI社のModel85を用い、水温、溶存酸素、塩分を測定した。

③増殖策

平成24年8月15日に採苗器（古網）を3カ所に2個ずつ設置し（図1）、平成25年2月1日に取り上げ、稚貝の計数を行った。

3) 結果

シジミ分布域は河口から国道9号線上流部の潜堤上流部までで、面積は約7.2万m²であった。シジミの資源量を採捕率60%として試算すると、数が約2,290万個、重量が約360kgであった。

水質は水温が6.3℃、溶存酸素が11.0mg/L、塩分が0.1psu（St.③）と良好であった。底質のシルト・クレイ分は0.2～15.7%と少なく、硫化物も最大0.86mg/gと低かった。

採苗数は1採苗器当たり0～6個であった。

4) 考察（成果）

シジミの生息域は潜堤上流部までと予想より広く分布していることが確認された。面積は約7.2万m²

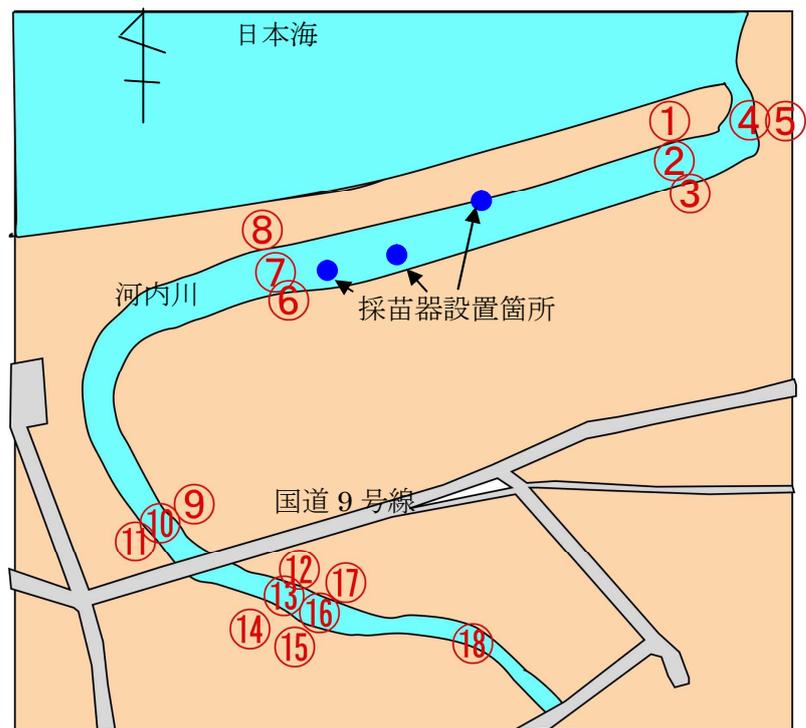


図1 調査地点

II H24 成果 3 内水面資源生態調査

と東郷池の漁場面積の4%程度と推定された。また、生息数・生息密度とも東郷池の1/5, 1/8と大幅に少なかった。ただし調査時期が3月であったことから、シジミ資源量を過小評価している可能性が高い。

東郷池では1採苗器当たり数万個の稚貝が採集されることがあるが、河内川は多くて数個と少なく、シジミ増殖策としては適していないと考えられる。また、環境も良好であることから、環境改善は効果が薄いと考えられる。

5) 残された問題点及び課題

シジミ資源量・環境については、調査時期が水温の低下期であったことから、夏期に補完調査を行うことが望ましい。

表1 河内川底質調査結果

調査地点	シルト・クレイ(%)	硫化物(mg/g)
1	5.3	0.02
2	2.1	0.23
3	7.1	0.09
4	0.2	0.00
5	0.5	0.00
6	8.9	0.03
7	15.7	0.86
8	4.1	0.01
9	2.7	0.00
10	3.3	0.00
11	4.7	0.03
12	3.2	0.00
13	7.9	0.00
14	7.3	0.00
15	3.3	0.00
16	8.7	0.05
17	7.2	0.00
18	6.0	0.00